神中しーぶん

平成27年
2月18日

神原中
不定期51号

一年の文化講演会！

～那覇市芸術監督「安田辰也氏」による～

去る二月十三日(金)五・六校時に、一学年を対象に那覇市芸術監督の安田辰也氏を招いての文化講演会を開催しました。「青春とは挑戦し続ける事」を演題として進められました。

文化芸術が人間性を豊かにし、文化芸術が内外の人々と友好を深め、信頼の絆を結ぶうえで極めて有益かつ有効な手段であり、生徒は未来に文化を継承し、新しい文化を創造、発展させるための担い手であることから、生徒に対する文化芸術の普及を進めることをねらいとしています。講演に入る前に、学年主任の知念先生により講師紹介がありました。

講演の方は、軽快な音楽に合わせたコミカルな動きを交えながら、会場の生徒達と一体感を生み出すようなオープニングでした。最初から、歌を含めて全開状態のパフォーマンスで生徒達が圧倒されているような雰囲気でした。

その後、DVDにより本人の活動紹介も含めた映像が流れました。小学校時代にクラシックギターを始め、高校時代にはエレキギターを演奏し、兄弟で名古屋でのデビューを目指していた。突然の兄の死により、目標を失いかけたときもあったとのこと。沖縄に根ざし、世界に通用する演出家を目指す安田さんの挑戦の様子を見る事ができました。リトルパークというところで踊っているときに、偶然にスウェーデンのサーカス団に声をかけられ、一ヶ月後に入団したことも、自分が変わる大きな転機になりました。それは、挑戦と同時に、少しだけ逃げの要素も含んでいたとのこと。自分の芸に悩んでいたときに、先輩から「サーカスは自分の人生だよ。単純に自分が楽しむ事が大事だよ」と言われたこと。自分は、人を無理矢理楽しませようとしていたんだ…、まずは自分自身が楽しむことが大切だと気づいたとの事でした。これは、勉強でも読書でも色々な事に当てはまることであるとも語っています。どの国に行っても、「三線の力」で盛り上がるとも言っていました。

海外の人は、自分の住んでいる地域の良さをアピールしてくる。つまり、自分の住んでいる国や地域の事を非常に良く理解しているのだと…。その時、自分は沖縄の文化をどれだけ知っているのだろうと、少なからずショックを受けたとのことでした。それから沖縄の歴史や文化を学ぶようになった。

講演の途中には、遠藤友理さんが「三線・唄」を披露しました。去る台湾交流で披露することができなかった内容でした。透き通った美しい声が印象的で、堂々とした演奏でした。講師の安田先生からも、お褒めの言葉がありました。

沖縄に帰った時の目標は、「①二十八歳までに音楽・芸能で食えなければ夢をあきらめる②沖縄から世界をつかむ」ということでした。九年間で十四カ国を回った中で、印象(ショック)に残った出会いは「カンボジア」のことです。みんなが学校で勉強している時間帯に、観光バスが止まると子ども達がやってきて物売り(商売)をしている状況があった事です。

十年後・二十年後は海外交流の時代になります。沖縄の文化を持っている人は、本当の心の交流ができるようになります。だから沖縄を、音楽を好きになって欲しい。そして自分を好きになって欲しい。大事にしている言葉が、「勇気」で、「勇気は出るものじゃなく、出すものだ」という事です。チャンスは誰にでもあります。そのチャンスをつかむには、一歩踏み出す勇気が必要です。

生徒の感想!!

ジャグリングやダンスなど、一つ一つの演技に気持ちが込められているのが感じられて、見ている僕も圧倒されました。夢は、あきらめずにチャレンジすれば必ず叶うんだなぁと思いました。これからチャンスがあれば、逃がさずにつかみたいと思います。(大城拓也)

「チャンスは近くにいっぱいある。しかし、自分から取りに行く勇気を出さないとチャンスはつかめない」という言葉が印象に残りました。(津波琉)

今回の講演会で色々な事を学びました。特に印象に残ったことは、「世界と戦うためには、まず自分・自分の生まれた場所の事を知る」という事です。すべての物事に言える事だと思いました。(野村航太)

自分の夢をつかむためには、ちょっとした勇気も必要だとあらためて知りました。今日の話を聞いて、色々と挑戦したいと強く思いました。(新垣小百合)

「沖縄から世界へ」という言葉には、いろんな失敗をしてるった事よりも、その先にあるものをつかむ勇気を出せていると感じました。(大濱愛瑛)

未来の医師認定!!

去る2月14日(土)に、おきなわクリニカルシミュレーションセンターにおいて、「ブラック・ジャックセミナー」が開催され、本校2年生の喜名このみさんが参加しました。

手塚治虫氏が描いたキャラクターが、天才的な外科手術の腕前を身に付け、維持し続けるという医療に対するひたむきな姿勢や、常に「医者の仕事とは何か」、「お金より大事なものは何か」を問う姿勢に共感し開催するものである。セミナーでは、「自動吻合・縫合機」「超音波凝固切開」「糸結び・皮膚縫合」「シミュレーション体験」「外科」「救急救命」の体験等行った。

セミナー終了後は、琉球大学医学部附属病院の國吉幸男病院長からの「未来の医師認定証」が発行されました。